

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4770800292		
法人名	医療法人博心会		
事業所名	グループホーム「うちな～家」		
所在地	浦添市仲間3丁目1番13号		
自己評価作成日	平成22年12月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijo.ioho-okinawa.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=4770800292&amp;SCD=320">http://www.kaijo.ioho-okinawa.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=4770800292&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室		
訪問調査日	平成23年 1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様の出来ることに目を向けてご協力をお願いする事でご本人様の役割意識が芽生え「生き生きとした表情」が、多くみられるようになりました。今後は余暇活動の充実や外出などを取り入れ楽しく生活して頂けるよう支援していきたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所の名称「うちな～家」にちなんで、う(うれしく、楽しく、のんびりと)。ち(ちかくに寄り添い)。な(仲間と共に助け合い)。～(地域の一員として、安全で)。家(家庭的な環境づくりを支援します)というわかりやすい理念を職員全員でつくり、心一つにして笑顔の多い「家」づくりに取り組んでいる。毎日の食事摂取量や水分量、尿量の記録を行って健康状態を適切に把握し、身体的機能の維持向上のため手引き歩行を多くしたり、本人のペースに合わせた食事介助を行う等、柔軟できめ細かい支援を行っている。皆で手入れをしている玄関周りの草花が心を和ませ、壁や床等を落ち着いた色合いで統一し、居室は職員の手作りの暖簾でプライバシーの保護が保てるような工夫がなされ、利用者は安心して穏やかに過ごしている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しく理念を作成したので今後は、具体的な実践方法を話し合い活用していきたいと思えます。	地域密着型サービスの意義を理解し実践するために、新人職員を含め全員で新しい理念を作り、いつでも見える場所に掲示してある。職員は理念を共有し、笑顔を大切にしながら一方通行の介護にならないように心がけてケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とは挨拶や買い物に出かける程度なので早急に交流する取り組みを行ないたいと思えます。	今年度は自治会へ挨拶を行い、散歩や買い物等を通して地域の方々へ声をかけている。近隣の小学校からの職場体験を受け入れて交流を持ち、つながりが深まるように努めているが、地域の行事等に参加する等の日常的な交流には至っていない。	利用者が地域とつながりながら暮らしていけるように、自治会や地域活動への積極的な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護週間に浦添市役所1階ロビーで、日常生活の写真や作品展示を行い認知症高齢者の援助の紹介を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われている会議では、ご利用者様の生活の取り組みや外部評価を報告し、話し合っています。	運営推進会議は家族代表や市町村担当者、包括支援センターの職員が参加し定期に開催している。事業所の活動状況やヒヤリ・ハットの内容等の報告を行い、利用者の日常生活の様子等も理解してもらっている。昨年度の外部評価結果で災害対策が課題となり、訓練を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や福祉事務所(保護課)への報告を行い協力関係を築いています。	市担当者とは利用者の状態変化や介護保険に関する事等で常に連携を持ちながら、運営推進会議に参加の際に事業所の実情も伝えられている。市主催の介護の日には市役所ロビーに利用者の作品を展示し、グループホームの啓蒙に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を理解し取り組んでいます。	職員は身体拘束をしないケアについて資料等で学び理解し、玄関はかぎをせず、絶えず落ち着きのない利用者であっても、さりげなく声をかけて寄り添っている。重度化した利用者の家族と話し合い、安全を優先して同意を得て、夜間のみベット柵を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員各自にパンフレットを配布したりミーティングの中で虐待しないよう話し合っています。		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は知っているのみにとどまっているので今後は、計画していく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っています。疑問や不安な点は、その都度納得できる説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を出してほしいと伝えておりますが要望は聞こえないので話しやすい環境をつくるよう努める必要があると思っています。	職員は、常に明るい笑顔で利用者や家族に声をかけて、意見や要望等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。居室の入り口の引き戸が滑りすぎるといふ家族からの意見があり、ミーティングで検討し安全面を工夫して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ホーム会議で意見を聞く機会を設けております。反映は十分なされていない。	利用者のペースに合わせた食事介助を行うために、交代で昼食をとる等、話し合っ業務を行っているが、利用者の重度化に伴う医療面やサービスの向上に向けての研修のあり方、勤務体制など、運営に関するホーム会議での職員の意見や提案が十分に反映するまでには至っていない。	職員全員でつくった理念を踏まえ、利用者の方々がこれからも安心して暮らしていけるように、ホーム会議で出された職員の意見や提案が、業務に反映出来るような仕組みづくりを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回(2月・8月)に人事考課を実施しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月一回(第二木曜日)実施。その他法人外の研修も職員派遣しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間のネットワークづくりは行っているが職員間には不十分なので今後、交流の場を作りたいと思います。		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報をもとに、ご本人様の思いに添える信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な気持ちや要望を聞き信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様がどのような生活を支援してほしいのか話し合いをもって対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意向や出来ることを見極め協力を依頼し支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の思いをご家族様に伝え、絆がきれないように協力して支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人様や親戚等の面会はありませんが出かけたい事がないので今後は取り組みたいと思います。	旧盆には馴染みの人たちとの交流が持てるように外泊や外出を勧め、事業所で過ごされる利用者はエイサーの見物を支援している。利用者がこれまで培ってきた暮らし方や人間関係については家族等から情報を得たり写真等から把握し、知人等の来訪時には本人の部屋で楽しく過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や相性に応じて配慮や支援を行っています。また、他のご利用者様を心配する発言も聞かれます。		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入院・入所された方へは情報を提供したり面会を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から要望を聞いたり意思確認ができない方は、ご家族様との話し合いに努めています。	文字を書くことの好きな利用者の「皆の役立ちたい」という思いをくんで、毎日の献立をお品書きにして書いてもらって貼りだす等、一人ひとりの要望や思いが実践できるように努めている。意思確認が困難な場合は家族等から情報を得て取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様、知人等から情報を収集しサービスへ反映させるよう職員同士、情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や精神状態に応じご本人様の保有する能力を活かすよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にご本人様やご家族様、ケアスタッフ等と情報交換を行ない反映させている。	一人ひとりの暮らし方や健康面等を利用者や家族と話し合い、「筋力低下を防ぐために日中はできるだけ起こしてほしい」という希望に対しては、マッサージや手引き歩行をプランに反映させ、計画を作成している。定期にモニタリングを行い、状況によって計画が変わることもあり、職員はミーティングで情報を共有し、ケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートなどに目を通し情報を共有しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズへの対応は努力していますが既存のサービスを中心に行なっています。		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流の情報が不十分で支援出来ておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や外来受診を定期的に行き主治医と連携を図っています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を定期的に受診し、必要に応じて家族に同行し日頃の状態を報告したり主治医への確認等も行い情報の共有をしている。家族が対応できない時の送迎や訪問診療の受け入れ、認知症専門医への受診等は要望に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とは相談を行い連携をとっております。定期受診の際は職員も同行して主治医への報告と適切な指示を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々に応じた医療機関等を確保し主治医と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に応じて随時、ご家族様と話し合いを持ち職員間も情報を共有し取り組んでいます。	重度化しつつある利用者については、母体施設の看護師に観察を依頼し見てもらうこともあり、家族には常に状態の報告を行っている。看取りについての取り組みは現段階では厳しく方針も未定である。家族への説明は入居の際に事業所の方針を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について研修を行っておりますが全職員が行なえるよう取り組みたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間想定にて行ないましたが地域との協力体制が築けてはおりません。	昨年9月と10月に利用者と一緒に夜間想定防災自主訓練を行っている。事業所内の壁やカーテンは不燃材を使用し火災に対する配慮がされている。2階の大家さんには声かけを行い協力は得られているが、地域との協力体制は築かれていない。	災害に対する危機感を常に持ち、避難場所の確保や利用者の誘導等訓練を重ね日頃から地域住民への働きかけを行い、いざという時にスムーズに対応できるよう協力体制を築いてほしい。

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識をしながら支持するよう話しておりますが全職員が出来ているとは言えません。	利用者への言葉かけには全職員が注意を払い、利用者の要望に対して直ぐに対応できない時は、「ちょっと待って」という前にちゃんと理由を説明し納得してもらうように対応している。居室の出入り口には手作りの暖簾を掛け、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の想いを優先するよう努力していますが、出来ない場合もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示ができる方へは心がけておりますが、時に業務が優先する時があり今後話し合う必要があると思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望(マニキュアを塗る)に応じて行なっておりますが、全員に対して出来ているとは言えません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材へは代替食の提供を行なっております。盛り付けなど個々の能力に応じて支援しています。バイキングや希望メニューも取り入れ楽しんで頂けるよう工夫をしております。	食事のメニューは母体施設の管理栄養士が作成したものを参考にしているが、利用者の希望を聞き好みのメニューに変えることもある。盛り付けや下膳、食器洗い等利用者の能力に応じた役割があり、無理することなく自然に参加されている。3か月に1回はバイキングを取り入れ食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の記録をとったり摂取能力に応じた食事形態に配慮し提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施しております。ご自分で十分出来ない方へは職員が確認し行なっております。		

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人のパターンに応じてトイレでの排泄を支援しています。	基本的にはおむつを使用しないケアを心がけており、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し日中は全員トイレ介助を行っている。トイレ内はカーテンで仕切り、排せつ終了後は声かけしながらそれとなく確認する等、羞恥心への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の確認を行い、薬物に頼らない、より良い飲み物や植物繊維の提供に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴を提供しているが体調や希望にも添えるよう支援しています。	入浴は一日おきを基本にしているが、できるだけ利用者の希望にそうようし、拒否する利用者へは時間帯をずらしたりタイミングをみて対応している。冬は脱衣場をストーブで暖める工夫をしたり、できるだけ馴染みの職員が介助する等利用者が、気持ち良く入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけや促しを行い体調やご本人様のご希望に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携をとりご本人様の状態に応じて支援しています。薬の内容に変更がある場合には、その都度確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の出来ること出来ないことを把握し日々の生活の活性化に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々、近隣へ散歩に出掛けたり買い物やドライブに出掛ける機会を設けております。	近隣の散歩と外気浴は日常的に行い、戸外に出る機会を作っている。時々スーパーや母体施設、役所等用事のついでにドライブに出かけストレス解消に繋げている。清明祭の頃のお墓参りや、家に帰りたいという利用者には個別に外出支援を行っている。	

沖縄県(グループホーム「うちな一家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお預かりのある方は、ご本人様の食べたい物を一緒に買えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだり、年賀状を書いて送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清潔に努めていますが、音や湿度・季節感の取り入れは不十分だと思います。	共用空間は暖かみのある床材で壁やテーブルの色と調和がとれ、室温を調整したり、清潔にすることで気持ち良く安心して過ごせるように努めている。利用者はテレビの前のソファで思い々に寛いだり、自宅で使用していたお気に入りの椅子を自分の居場所にして過ごす利用者もいる。玄関先には長椅子を置き腰かけて靴の脱着が容易にできるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり配席に配慮しながら楽しく過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様へは協力依頼していますが、得られないご家族様もあり工夫が必要である。	居室には、1人ひとりの大切な物品や仏具等が自由に持ち込めるようにしており、季節の洋服等の入れ替えや配置は家族にも協力してもらっている。転倒予防も兼ねベットから畳間に変えて自宅にいるような雰囲気づくり等も工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではありませんが個々の能力に応じた環境を話し合う必要があると思います。		